

かいとくかいざん  
**72. 海德海山 Kaitoku Seamount**

北緯 26° 07.6′ 東経 141° 06.1′ 水深-95m (南東峰最浅部)



変色水 上空から 1984年3月17日 海上保安庁撮影

### 概要

1984(昭和 59)年 3 月に北硫黄島北北西方洋上(26° 07.3′ N, 141° 06.1′ E)で海底噴火があった。噴火地点付近の浅瀬は、海德海山と命名された。なお、1543(天文 12)年には北緯 26° 00′、東経 140° 46′ 付近で海底噴火が報告されていて海德海山の活動とも考えられるが詳細は不明である。構成岩石の SiO<sub>2</sub> 量は 47.7~62.4 wt.% である。噴火浅根とともに「北硫黄島付近海底火山」と呼ばれることもある。

## 地形図

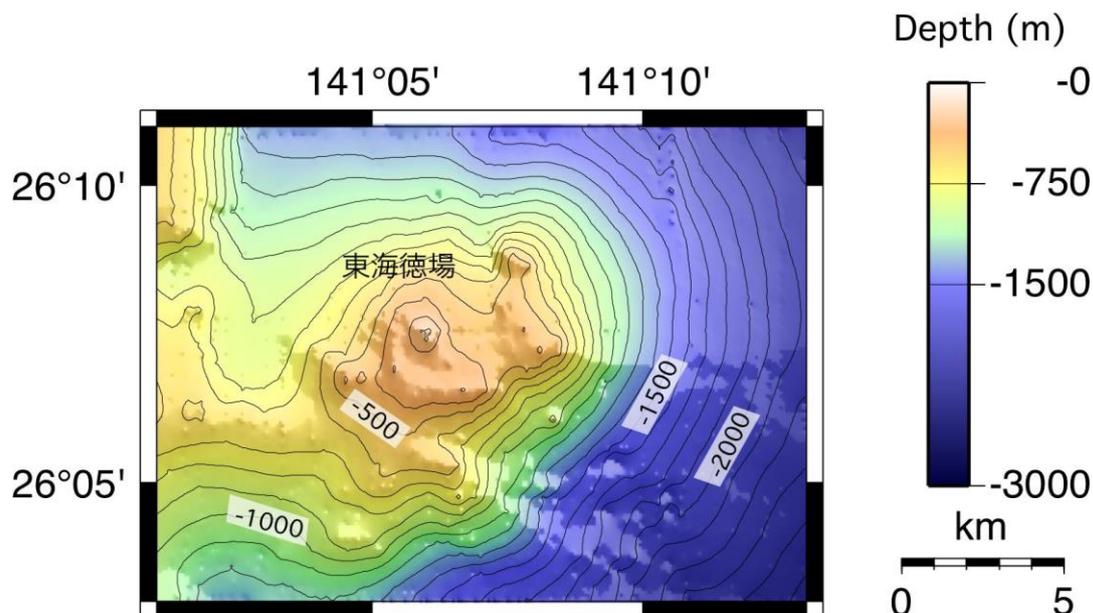


図 72-1 海徳海山周辺の海底地形（海上保安庁海洋情報部）。

## 噴火活動史

## ・有史以降の火山活動（▲は噴火年を示す）

年代	現象	活動経過・被害状況等
▲1543(天文12)年 <sup>2,3</sup>	海底噴火？	噴火場所は西海徳場？ <sup>2,3</sup>
▲1984(昭和59)年 <sup>1</sup>	中規模：マグマ噴火 or マグマ水蒸気噴火？(海水変色) <sup>1</sup>	3月7日～6月。噴火場所は東海徳場 <sup>1</sup> 。海水変色(幅約10km、長さ約50km以上)、海面の盛り上り、噴煙、軽石等の噴出。マグマ噴出量は0.001 DREkm <sup>3</sup> 。(VEI2)
1984(昭和59)年 <sup>4</sup>	(海水変色) <sup>4</sup>	12月23日。場所は東海徳場 <sup>4</sup> 。
1986(昭和61)年 <sup>4</sup>	(海水変色) <sup>4</sup>	6月18日。
2001(平成13)年 <sup>2</sup>	(気泡湧出) <sup>2</sup>	7月20日。場所は東海徳場付近 <sup>2</sup> 。海底からの気泡湧出。

※噴火イベントの年代、噴火場所、噴火様式等については、(独)産業技術総合研究所の活火山データベース(工藤・星住, 2006-)および海域火山データベース(海上保安庁海洋情報部, 2006)を参考とした。

## 【引用文献】

1. 土出昌一・加藤 茂・打田明雄・佐藤寛和・小西直樹・小坂丈予・平林順一 (1985) 海徳海山の海底火山活動. 水路部研究報告, 20, 47-82.
2. 伊藤弘志・堀内大嗣・芝田厚・鈴木晃・小山薫 (2012) 日本周辺海域火山通覧(第4版). 海洋情報部研究報告, 48, 41-73.
3. 気象庁 (2005) 海徳海山. 日本活火山総覧(第3版), 447-448.
4. 海上保安庁海洋情報部 (2006) 海域火山データベース (<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/list-2.htm>).

## 関係する主な気象官署

機関・部署名	所在地	電話番号
東京火山監視・情報センター	(気象庁本庁) 東京都千代田区大手町 1-3-4	03-3212-8341
東京管区気象台総務部業務課	東京都千代田区大手町 1-3-4	03-3212-2949